

早稲田大学 グローバルCOE 「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」  
調査研究支援スキーム 成果報告

所属 アジア太平洋研究科 学年 D5 氏名 鄭成

日程 2007年9月2日 ~ 9月21日  
渡航地 (国・都市名) 中国、北京、上海

中国 北京、上海

### リサーチ目的

1940年代後半、ソ連軍占領下の旅順・大連地区全体の状況を把握するため、現在まで中心して集めた中共側の文献史料のほか、国民党側が出版した資料を調査、収集するため、上海と北京の図書館と古本屋で資料調査を行う。

また、中ソ関係研究の第一人者である、北京在住の沈志華氏を訪ね、自分の研究についてコメントを求めるほか、旅大地区におけるソ連側の档案史料、国民党側の史料の手がかりについて情報提供を依頼する。

### 研究課題

#### 地方レベルにおける中ソ協力関係の形成 — 国共内戦期の旅順・大連地区を中心に —

博士論文は、基本的に1940年代後半、中共とソ連が正式の同盟関係を締結する前、旅順・大連という地域で、中共の地方組織とソ連の占領軍当局が、指導部の大枠の方針の下で、自分側の利益の確保と相互の利益調整に行いながら、協力関係を形成していく過程を歴史的に考察することで、この時期の社会主義同士の初期的接触における特徴をつかみたい。

中ソ関係についての先行研究は、外交交渉、指導者の戦略意図、国際情勢など、いわゆる国家レベルの視点からのものが多い。それは当時の中ソ関係は国家指導部の主導によって展開されたことが大きい。二次世界大戦後になって、地方レベルの基層組織が両者関係において一つの要素として登場して、下から両者の同盟関係の形成をサポートしたが、このあたりについては今まで見過ごされたところが多い。

本研究は従来の研究で見過ごされたところに歴史的考察を通して、中ソ関係史におけるもう一面を提示するとともに、現代の中国国民の対外感情の現状を意識しながら、当時中国国民の対外感情形成への影響を探ってみる。

## 成 果

報告者は 1940 年代後半の中国旅順・大連地区（以下で旅大地区）で展開されている中共とソ連軍占領当局の相互関係を考察対象にして、これまで主として同地区の中共党史資料を中心に資料収集を行ってきた。これらの資料によって、1945 年 8 月末ソ連軍が旅大地区を占領した初期より、同地区における主導権をめぐる中共、国民党、ソ連三者間の政治的、軍事的動きを中共の視点から把握することがほぼできた。中国現代史を研究する際、史料に語られる多くの史実は編纂者が時の情勢に応じて「加工」されていることは念頭に置かなければならない。その「加工」された部分に流されないように、一つの手は一方側の資料に限らず、対立面を含めてできるだけ多くの利益側の資料を読むことだと心がけることだと思う。そのため、以上中共側の資料の収集を行う際、国民党側、ソ連側の資料収集にも気を配っていたが、手がかりが少ないため、成果が少なかった。

また、同研究はゼミや学外の研究会で数回も発表したことがあり、主として日本人研究者からコメントをいただいたが、同じ時期の中ソ関係を研究する中国側の学者から自分の研究について意見を求めるのが、今回の目的の一つである。

結果的には、資料の面では、上海図書館で 1945 年後半から 1946 年前半まで国民党側が出版した、当時の東北状況を報道し、または論評する著作を数冊見つけた。新たな資料を得ることによって、国民党側の視点から当時の東北情勢を見ることができた。これまで自分は一次資料としては中共側の資料を多用してきたため、編纂者が意図的に伝えようとすることを無意識的に吸収したり、またはむしろそれへの抵抗として過度に反応したりすることが多々あると思うが、今回まとまった国民党側の資料の入手によって、ある意味で「健全な修正」が可能になったのである。データの的には、1945 年 8 月ソ連軍が旅大地区に進駐して二ヶ月後、国民党勢力に対して全面的取締りを行った。その原因について、中共側の資料では、国民党勢力が反ソ活動を行ったためとして、詳しく触れていなかった。今回の入手した資料から国民党側の見解を得ることができた。

北京では、中ソ関係研究の中国第一人者の沈志華氏を訪問して、自分の研究について氏からコメントをもらうことができた。その他、資料収集の面で、氏から貴重な助言をもらっただけでなく、さらに氏が度重なるロシアへ足を運んで、入手したロシア側関連公文書の目次を快く提供してくださった。ただし、氏の話によると、旅大地区に関しては、当時のソ連は軍関係の駐在機関のため、档案や公文書などの資料はロシアでもいまだに公開されていない。一つ貴重な資料源が現在アクセスできないということを知り、研究者としては無論喜ぶことではないが、当分の間利用できる資料の限界を把握できたのは、ある意味で一つ大きな収穫だとも言えるであろう。

事業推進担当者確認（署名・押印）

メイン

サブ

\*A 42 枚以内。各項目のスペースはご自由に変更下さい。